

認知症サポーターのステップアップ研修内容の作成

- 本モデル事業で活用した研修プログラムは、平成 27 年度独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業「認知症の人等にやさしい地域づくり推進事業」において作成したものである。
- 本研修プログラムの特徴としては、以下の点が挙げられる。

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">①どの地域でも活用できるよう、各地域の状況を組み入れることができるような研修プログラムとしていること②研修受講者が自身の経験や研修での話し合いの中から、認知症への否定的な印象や雰囲気や和らげることの重要性を認識した上で、自ら行動を起こせるような内容としていること <p>(平成 27 年度独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業「認知症の人等にやさしい地域づくり推進事業」活動報告書より)</p> |
|---|

- 一方、本年度の事業におけるモデル事業等の実施結果からは、プログラムの日程調整や開催場所に関する意見、および研修の運営に関するいくつかの意見があった。
- こうした課題に効果的に対応するためには、モデル事業で活用した研修プログラムを地域特性や運営主体、参加者の意向等にあわせてアレンジを加えることも有用と思われる。
- 上記の背景を踏まえ、本事業ではステップアップ研修のプログラム内容自体はモデル事業で活用したものとしつつ、想定されるアレンジを「実践上のポイント」として付記した研修プログラムをとりまとめることとした。
- 具体的な内容は、次ページ以降のとおりである。

タイトル：認知症サポータースキルアップ研修1回目
 <誰もが安心して過ごせる地域づくり>

<狙い/成果> 問題の共有と活動のきっかけ作り

<対象者/人数> 認知症サポーター養成終了者/20人程度	<時間/場所> 13時30分～15時30分まで(2時間)/ 公民館・保健センター等
---------------------------------	---

※実践上のポイント

同じ対象者に2回目、3回目の研修を行う場合の「狙い/成果」としては、下記のような内容が例として考えられます。
2回目：例）現状報告と意見交換/マップや活動手帳
3回目：例）活動の振り返り/今後の活動へのステップアップ

【開催場所】
 参加者がゆとりを持って入れる場所を設定します。
 参加者に知ってもらいたい場所、施設（保健センターや地域包括支援センター等）があれば、広報も兼ねてその施設を開催場所としてもよいでしょう。
 【開催時間】
 本プログラムでは2時間での研修実施を想定しています。
 これより短い時間でも可能ですが、あわただしく余裕のない研修にならないようプログラムをアレンジすることも検討します。

地域住民がすでに顔見知りの場合は、グループの自己紹介は省略することも可能です。

情報共有の中では、必要に応じ認知症支援に関する社会資源（各種介護保険サービス、自治体事業、地域活動等）を紹介しておくことで、その後のより具体的・実践的な検討につながる可能性があります。

	時間	狙い/目標	活動内容/問い	場の設定
1	13時30分～13時45分 (15分間)	導入： 趣旨を理解する 話しやすい雰囲気を作る	・趣旨説明(主催者説明・次項の説明含め5分) ・グループ自己紹介 (ヒント：隣の人の名前や気になる事を聞いて紹介)	席はアイランド 1G 5・6人 4G形成 マイク 事前に名札を胸に
2	13時45分～13時55分 (10分間)	インプット：体験型スライド 問題を提起し必要な情報を共有する	<こんなことは地域で見かけませんか？> ①認知症の現状と将来(行政に頼れない) ②地域でのケアについて(地域診断、ケアパス等) ③地域で見られる偏見等の現実を紹介(漫画を活用)	【標準資料提示】 プロジェクター 配布資料：ケアパス・使える資源資料
3	13時55分～14時10分 (15分間)	グループの形勢： 感想を共有する	<スライドを見てどう思ったかを話し合う。> >見かけた事、認知症。 ・同じような状況を地域で見かけたこと体験した事ありますか？ ・認知症のイメージについて話し合う	最初の3分各自で記入 発表しながら張り付ける 最後の3分2G程度発表

認知症サポーターステップアップ研修 研修プログラム（2 / 2 ページ）

	時間	狙い/目標	活動内容/問い	場の設定
4	14時10分～ 14時15分 (5分)	役割期待の提示	<認知症サポーターに期待される事> ・認知症サポーター養成意義概要説明	【標準資料提示】 プロジェクター
5	14時15分～ 14時50分 (35分)	解決策発散	<認知症になっても安心して過ごせるためには何が必要？> ・役割分担(司会、発表者) ・問: 認知症になっても安心して過ごせるために何が必要か？ ・付箋で自由に書いて模造紙に張り付ける。	ファシリテーター: 包括 最初の3分各自記入 付箋・模造紙・ペン
6	14時50分～ 14時55分 (5分間)	成功ビジョンの共有	・明るい未来体験(ビデオ) ・地域で活動している人と支援を受ける人の”笑顔””声”	【ビデオ提示】 プロジェクター
7	14時55分～ 15時10分 (15分)	意思決定	<さあー！ 頑張りましょう!!> ・明日からできること、やれそうなこと ・重要性、取り組みやすさの二次元展開でまとめ	付箋・模造紙・ペン
8	15時10分～ 15時25分 (15分)	振り返り 目標共有	・各グループ発表	4G形成として 3分/1G マイク
9	15時25分～ 15時30分 (5分)	クロージング	・次回の予定を確認して次につなげる。	

取組の重要性や取り組みやすさは、社会資源の数や地理特性、人口構成等により一概に決まらないことも考えられます。
重要性や取り組みやすさにこだわり検討が止まることも考えられますので、ゆるやかな定義づけにとどめ、大まかに「取り組みやすいこと」「重要と思われること」をまとめていくことも必要です。

付箋を貼った模造紙を前に張り出すなど、わかりやすく発表できる工夫を行います。

注: G=グループ